



連日 全力 熱闘 継続中 (7月30日午後4時段階)

サッカーは初戦でシード校の玉川中を1:0で破り、対平三中戦を4:0で勝ち上がりました。しかし準決勝で磐崎中に惜敗し、3位となりました。

バレーボールは予選リーグを2位で通過後、植田東中に勝ち、8月2日の準々決勝に進みます。

野球は初戦で上遠野中に14対0で勝ち、2日目(対植田中)に進出です。

今年度は4月から臨時休業が続き、短い練習期間でしたが、どのチームも精一杯実力を出し切っています。「**旗取りの一学期**」に**ふさわしい活躍**です。皆さんもどうか心の中で応援をお願いします。

通知票の見方 (2, 3年生の皆さんも再確認してください)

中学1年生にとっては「**5から1の数字で評定がつく通知票**」は初めてのことで、その評価・評定の概要をお伝えします。

評価に使う**材料**は大きく分けると次の3種類です。

- ① 中間・期末等の**テストや実技・作品の成績**
- ② 授業への**参加状況・態度・意欲や発言**の状況
- ③ 課題や宿題等の**提出物**の状況

各教科ごとに4~5つある「**観点**」に対する**到達度**を上①~③をもとに評価し、「十分に達成されている」場合には通知票に○印で示されています。

(ここまでは小学校とほぼ同じです。次からが中学校で加わる内容です。)

上の**観点ごとの○の状況(数)**で「**その教科の評定(5から1)**」が決まります。

例えば**全ての観点が○**なら、その教科の**評定は「5(特に優れている)」**となります。その他の評定(4, 3, 2, 1)の意味については・・・

- 4: 優れている
- 3: 普通
- 2: やや努力を要する
- 1: 努力を要する・・・となっています。

なお、極端な例ですが、テストや実技が毎回100点満点でも、「授業への集中が今ひとつ」とか「宿題・提出物が期日までに提出されない」という場合には「**評定5**」にはなりません。

今日お渡しした通知票でお知らせしているのは「**1学期の評定**」です。最終的には1年間を通しての結果である「**学年末の評定**」が記録として残ります。

今回結果が思わしくなかったという場合には(そうでなくても)2学期に挽回、向上の**チャンスは全員に等しく**あります。ぜひ、通知票の観点ごとの内容も参考にして、夏休みの勉強に取り組んでほしいものです。

8月の行事予定(市中体連等)

市中体連の日程は天候等の都合で変わる場合があります。

- 2日(日) バレーボール③
- 3日(月) バドミントン②
- 4日(火) 剣道①、野球②
- 5日(水) 剣道②、テニス①、野球(予備日)
- 6日(木) テニス②、野球③
- 7日(金) 卓球①、テニス③、野球(予備日)
- 8日(土) 卓球②
- 9日(日) 卓球③、テニス(予備日)
- 10日(月) バスケットボール①
- 11日(火) バスケットボール②
- 12日(水) バスケットボール③
- 25日(火) **始業式**
- 27日(木) 市中学校英語弁論大会(中央台南中にて)

昨年と同じ内容ですが、ぜひ目を通してください

夏に、ぜひ考えてほしいこと「戦争と平和について」

終戦から75年過ぎていきますので、私自身には直接の戦争体験はありません。しかし、私の父親やその兄弟は戦争に参加していました。

私の父は少年飛行兵でした。訓練を積んでやがては飛行機のパイロットを目指していました。初歩の飛行訓練は新舞子の海岸で、グライダーを使って行われていたと聞きました。

海岸での訓練中のある日、沖に現れたアメリカの軍艦からの砲撃がありました。少年兵たちは一斉に砂浜に掘ってある塹壕(ざんごう:通称「たこつぼ」)に隠れました。

激しい砲撃が続き、父の隠れていた隣のたこつぼは砲弾の直撃を受け、仲間が亡くなったそうです。その時の破片で父も負傷しました。ケガは命に関わるものではありませんでした。しかし、父の右の脇腹には消えることのない傷ができました。考えてみれば、その砲弾が数メートルずれていれば、亡くなるのは父だったはずで、そうなら私にもこの世に生まれてこなかったこととなります。

戦争は国家と国家のもめ事を武力で解決しようとすることです。「国家と国家」とはいえ、実際には人間同士が武器を使って争うことです。そして傷つき亡くなるのは人間である私たち一人ひとりです。勝っても負けても個人には心や身体の傷・悲劇しか残りません。

父の身体に刻まれた傷を見ながら、その経緯を聞いたのはいつのことだったか、はっきりとは覚えていません。父と一緒に入浴した時だったか、それとも家族で海水浴に行った時だったか。いずれにしても「平和な時」に聞いたに違いありません。

このように戦争の話ができるのは、平和である証拠です。しかし、その直接の証人と彼らから得られる知識は少しずつ減っています。知識がなければ正しい判断はできません。そのためにも戦争から目をそらさずに様々な情報に触れてほしいのです。

75年前の8月6日には広島が、9日には長崎がアメリカによる核攻撃を受けました。そして15日に終戦となりました。今年もそれぞれの日には祈りを捧げる式典が行われます。それらをきっかけに、身内や親類、ご近所に年配の方がいらっしゃるしたら、ぜひ当時の話を聞いて、知識を深めてほしいものです。また、自分なりの方法で調べることも可能なはずです。

知識が深まれば、正しい判断へとつながります。そしてその判断が、戦争の無い平和な世界を作ると信じています。